

リハマネ加算Bを基盤としたサービス併用 利用（通所・訪問・ショートステイ）に より在宅生活を支援している1事例

理学療法士：内田 紳太郎（訪問リハ）

作業療法士：橋本貴美恵（訪問・通所リハ）

作業療法士：竹添慶太（動画編集）

はじめに

今回、周圀に遠慮深く独居生活を継続してきた80歳代女性が、心身機能の低下と、取り巻く環境の変化によりQOLの低下が見られ、訪問リハから通所リハ（リハビリマネジメントB）の利用に至り、各サービスと連携を取りながら在宅生活を続けている対象者を担当させて頂いたのでご報告させて頂きます。

●目次

- 症例紹介（動画紹介）
- 現在までの経過
- 訪問リハ開始に至るまで
- 【初回アセスメント・サービス担当者会議】
- 訪問リハでの様子(動画紹介)
- 通所利用開始までの経緯
- 通所リハビリの様子(動画紹介)
- リハビリ会議の様子(動画紹介)
- ショートステイ利用
- ご家族からのアンケート(動画紹介)
- サービス併用のメリット
- 高齢者のQOLに影響する環境要因
- 今後の課題・まとめ

症例紹介

80歳代 女性 A様

【介護度】要介護3

【主病名】両変形性肩関節症，両変形性膝関節症，変形性脊椎症，
認知症疑いあり(初回評価：HDS-R15点/30点)

【コミュニケーション】難聴あるが短文でのやりとり可能

【家族構成】長男様，お嫁様，孫2人の5人家族/家族関係は良好

【性格】控えめ，周囲に気を使いやすい

【利用サービス】通所リハ(週2回)，訪問リハ(週2回)，ショートステイ月1回

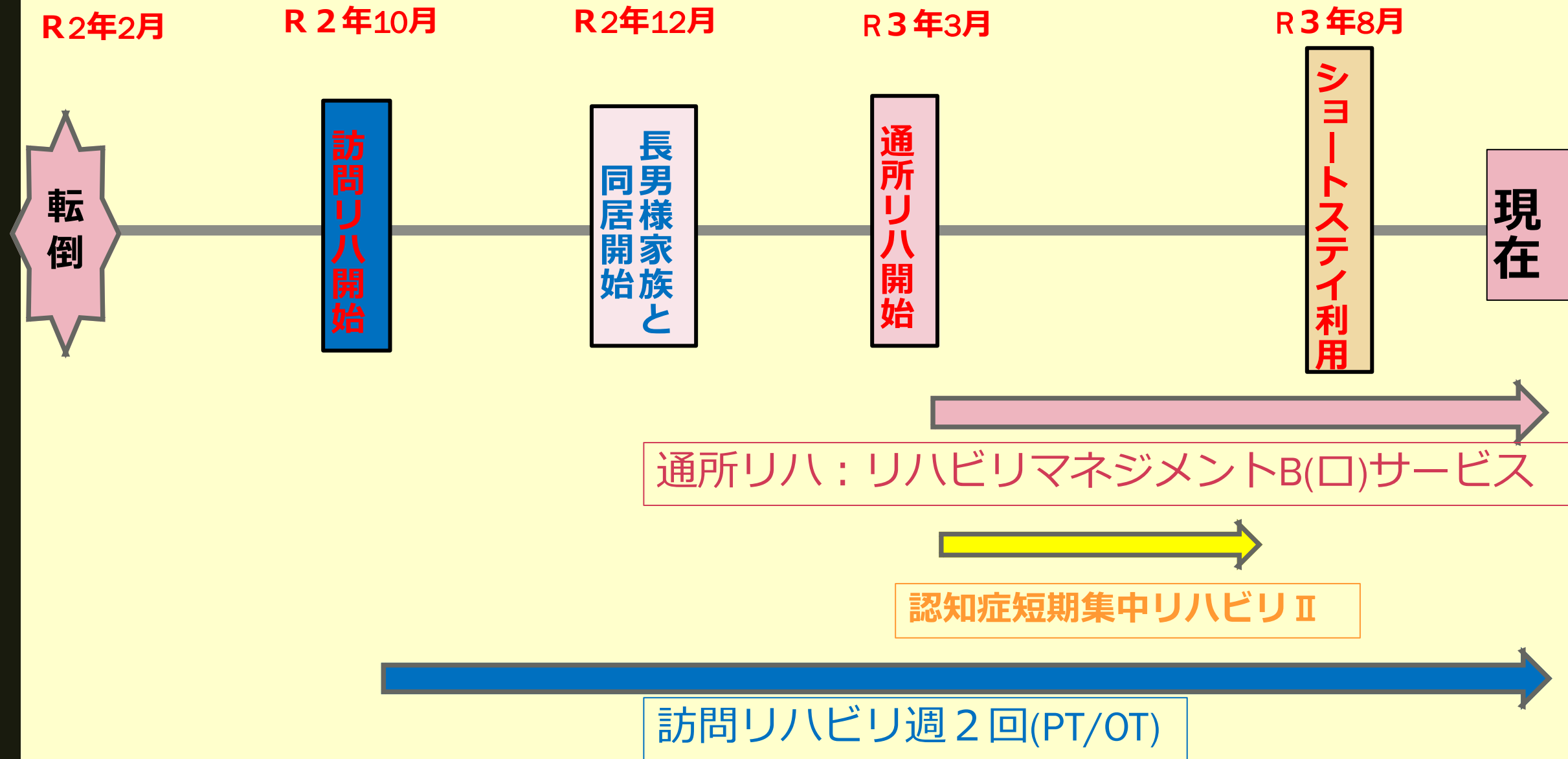
【本人主訴】安全に歩けるようになりたい，周りに迷惑を掛けたくない

【家族主訴】安全に歩いて欲しい，様々な人と触れあい前向きに生活して欲しい

● 訪問開始に至るまでの経緯

- マンション2階で独居。近くに住んでいる息子様夫婦の援助を受けながら生活。
- 2か所のデイサービス利用されていた。
- R2年2月 買い物中(歩行器歩行)に転倒。
- R2年3月 コロナにて1か所のデイサービスが休止。
- 配達サービスの休止や、家族様の訪問機会減少。
- R2年7月 介護認定更新 身体機能低下見られ、CMより訪問リハビリ提案するが保留。
- R2年9月 転倒を繰り返される
- R2年10月 外出機会減少、身体機能低下、自宅内転倒
訪問リハアセスメント実施

●現在までの経緯



●初回アセスメント 10月上旬開催

■ CMより女性希望あり訪問

■ 評価

- ・ 外反膝(X脚)による立位保持困難
- ・ 外用歩行器使用し歩行器調整が必要
- ・ 変形性肩関節症による疼痛の影響で起居動作・下位動作に介助必要.

⇒ベッド環境の調整必要

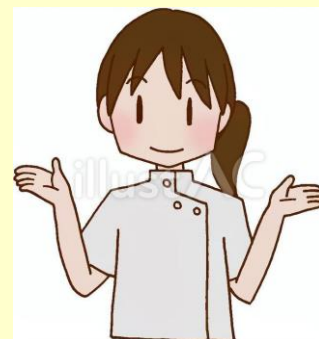
- ・ 難聴あるが短文でのコミュニケーションのやりとりは可能
- ・ “当時通っていた機能型デイの曜日を間違える”

⇒認知機能低下疑いあり

家族には迷惑掛けたくない



A氏



洗濯物を自分で干せる
ように環境を工夫したり
一人で頑張ってきた
んだろうな・・・

作業療法士

● 担当者会議開催と参加

- 開催日：R2年10月29日
- 感染対策をとりながら開催
- 参加者：長男様・お嫁様，担当CM，機能型デイサービスリハ担当，カトレア訪問リハ担当
- 問題点の共有
- 目標/方向性



- ご本人の気持ちを尊重しながら環境調整
- 同居の予定あり
- タイミング見ながら区分変更を掛ける

訪問リハでの様子

R2年10月21日～令和2年12月23日(独居・集合住宅)



*動画紹介あり

<目標>

- 12月下旬の転居まで、転倒なく安全な生活動作が行える。
- 環境調整により安定した起居動作・歩行能力の向上を図る

- 介護ベッド導入、リモコン操作、起居動作訓練
- 立ち座り動作訓練
- シルバーカーでの室内移動／同線確認
- 自宅環境下での入浴動作／介護指導
- 下衣動作練習



訪問リハでの様子

R2年12月24日～令和3年2月 (同居開始)



*動画紹介あり

<目標>

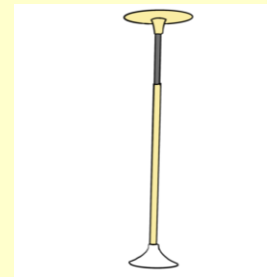
- 新しい環境下での安定した生活動作の獲得
- 自宅での役割を獲得し活動量を維持する

- キャスター付きピックアップ歩行器へ変更



- 動線確認

- トイレが広くなり、縦手すり設置



- 下腿の浮腫増強や、膝関節部に水が溜まり病院で水を抜くなど、環境変化に伴う身体機能面の変化。

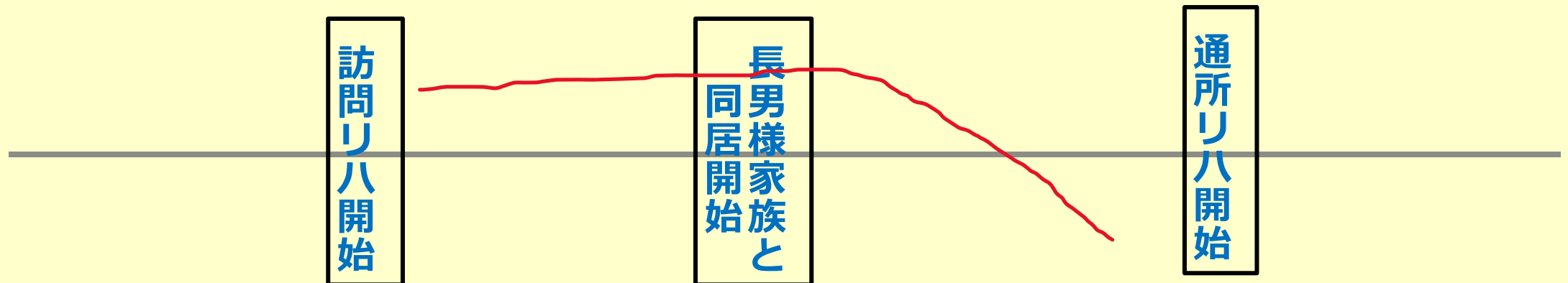
通所利用開始までの経緯

■ R2年12月下旬より長男様宅で同居を開始

⇒同居と同時に区分変更申請を掛ける予定だったが”同居”という大きな環境変化があり、同居生活が慣れてから区分変更申請を掛ける事となる。

■同居生活が始まり家事という役割の軽減と家族への遠慮しがちな性格から活動量と意欲低下が著しくなる

■カトレア通所リハへの提案をし、R3年3月1日付けで区分変更を掛けるタイミングで通所リハ開始となる。同時にリハビリマネジメントB(□)加算開始となる。



通所リハでの様子

<目標>

- 他者との交流を通して活気のある生活を送る
- 歩行の機会を作り活動量を維持する
- 生活リズムを整え自身でスケジュール管理が出来る



認知症短期集中リ
ハビリ加算Ⅱ(+)



初回：HDS-R15点/30点
⇒3カ月後：HDS-R20/30点



*動画紹介あり



●リハビリ会議

構成メンバー

本人
家族
ケアマネ
医師
セラピスト

- 第1回目・・・通所リハ開始の様子について
- 第2回目・・・自宅での役割について
- 第3回目・・・トイレ内での下衣動作・排泄について
- 第4回目・・・家族のレスパイト目的でのショート利用について
- 第5回目・・・初回ショートステイ利用の様子について
- 第6回目・・・①2回目のショートステイの様子と排泄問題について②6回目の総括とアンケートへのご協力を依頼。

***動画紹介あり**



●ショートステイ利用

■ 経緯

- ・夜間中のトイレまでの移動時に転倒
- ・汚染したパットの処理問題あり
- ・お嫁様の介護疲れとお孫様のストレス増加
- ・家族交流機会の確保

⇒レスパイト目的でショートステイ利用となる

■ 課題 Pトイレの練習

アンケート結果

- 「毎回のリハビリ会議は、家以外の様子を教えて頂けて良かった」
- 「今後も状況に応じた相談をしたい」
- 「ショートステイも家族の休息の時間や子供達との時間を持てて良かった」

お嫁様



リハビリ会議を通して情報共有が出来、ショートステイにも繋がりとても有意義だった。

ケアマネージャー



●サービス併用利用のメリット【強み】

<メリット>

- ★家族・他職種・各サービスとの情報共有がしやすい
- ★急変時に早期に対応出来る

通所リハ

- ・他者との交流
- ・入浴の確保(清潔を保持する, 皮膚観察)
- ・身体機能の維持・改善
- ・生活リズムを整える
- ・活動量の維持
- ・家族のレスパイト

リハマネ加算Bによって
繋がっている

ショートステイ

訪問リハ

- ・家族のレスパイト
- ・身体機能の維持・改善
- ・生活リズムを整える

- ・病状の観察
- ・環境調整
- ・身体機能の維持・改善
- ・日常生活の指導と助言
- ・介護相談・家族支援
- ・CMとの連携

サービス併用利用のメリット

<トイレ練習の場合>

訪問リハ

実生活環境での評価が可能



家族への助言も含め環境調整しながら実動作練習可能

通所リハ

可能性の各要素への練習可能



通所トイレでのシュミレーション

ショートステイ

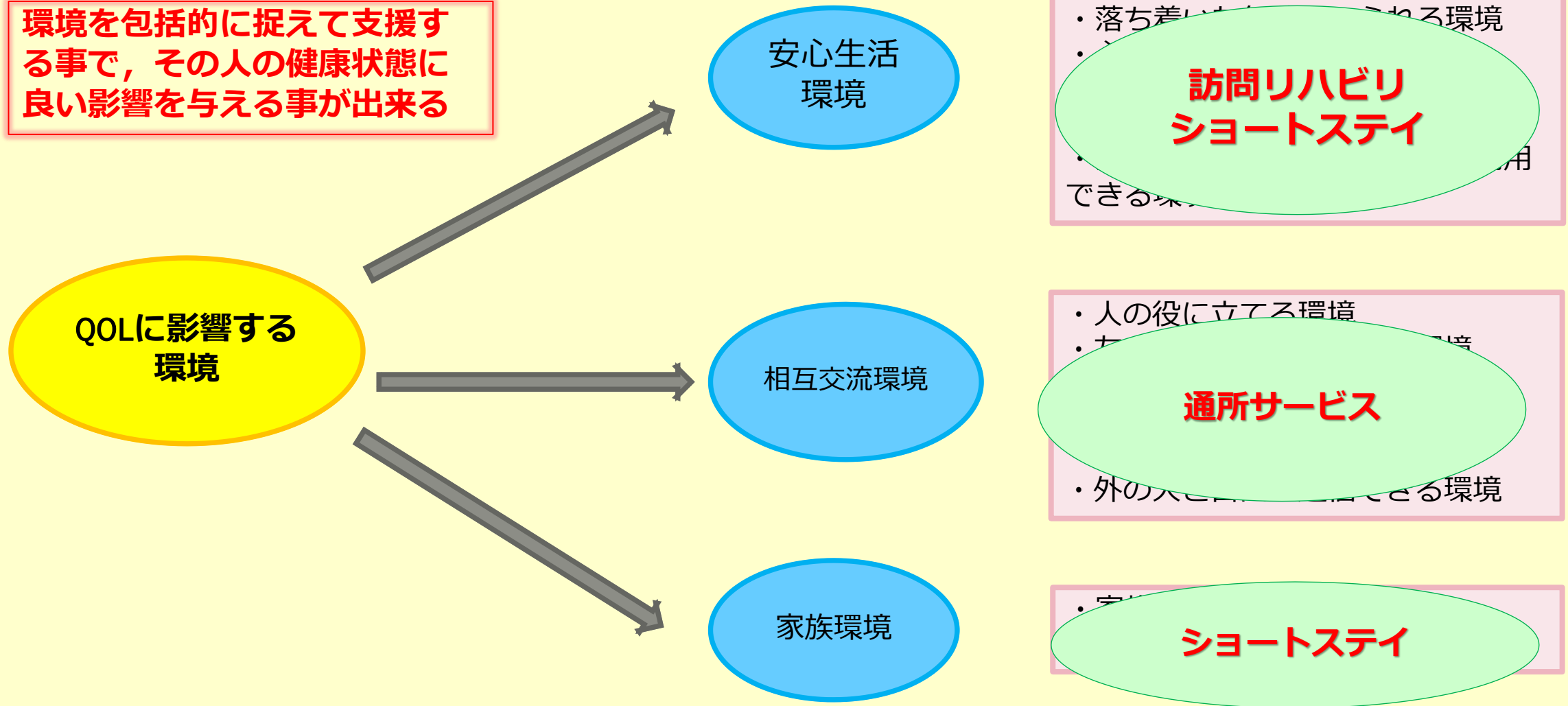
昼夜を通して評価・動作の安全性の確認



他職種の評価も実施可能

高齢者のQOLに影響する環境要因

環境を包括的に捉えて支援する事で、その人の健康状態に良い影響を与える事が出来る



＜参考文献＞

1) 藪脇健司, 「高齢者のその人らしさを捉える作業療法」 2015

今後の課題・まとめ①

高齢期は損失の時期とも呼ばれ“心身の健康の損失”・“社会的繋がりの損失”等が挙げられる。心身の健康の損失には、物理的環境の支援、社会的繋がりの損失には社会的環境の支援ををする事で損失体験を軽減し、心身機能の十分な回復が認められなくても家族・サービスの利用による人的支援を受ける事で高齢者のQOLを改善する事は可能となる¹⁾と言われている。

A氏の場合も身体的能力の低下はあるが通所リハ・訪問リハ・ショートステイのサービス併用と何よりも良質な家族支援がある事で現在の在宅生活が継続されていると考えられる。

今後の課題・まとめ②

家族との同居という一大イベントがあり、一時期は家事等の役割の損失から活動量と意欲低下が著しかったが社会的環境という人的サービスの導入により活気も取り戻す事ができた。

今後の課題としては排泄問題やご家族の精神的ストレスの軽減が課題となってくると考えられる。現在、将来的にどこまで在宅生活を続けていくか、ご家族と相談している段階だが、今後は期間限定入所も考慮しながらごA氏・ご家族・各職種で協議を進め、A氏・ご家族様にとって安心して生活できる環境作りをリハビリマネジメントを通して支援していきたいと考える。

ご静聴ありがとうございました